

2. 商業の展開

No. 6

※朱印船貿易などで巨利を得ていた初期豪商にかわり、独自の商品で発展する新興の商人が現れた。酒造をきっかけとする鴻池、材木の紀伊国屋、奈良屋、呉服の越後屋などが代表的な新興商人。

① 9 問屋 を中心とする流通機構の整備

問(問丸)の発達したもの。倉庫業を兼ね、生産者・荷主から商品を仕入れ、その商品を仲買や小売に卸した。

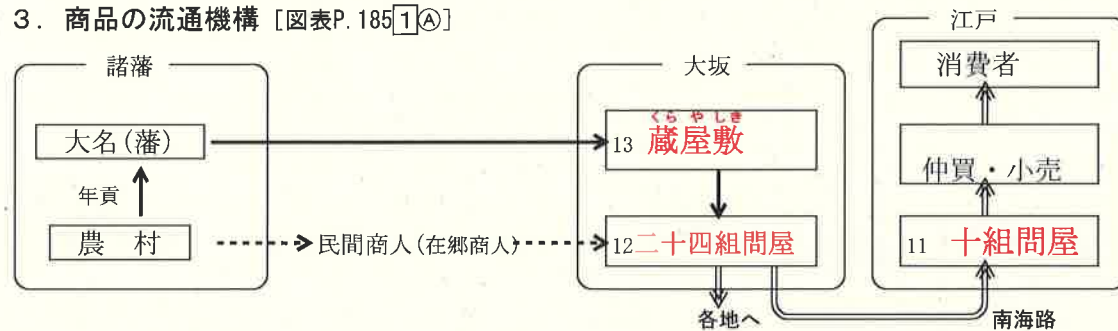
② 10 株仲間 の結成 [図表P.185①]

同業者などが相互扶助や営業ルールの取り決めなどのために結成した問屋仲間が幕府・諸藩によって営業独占権を与えられたもの。 ※「株」はここでは営業権をさす。

☆ 17世紀末に結成された江戸の荷受問屋仲間・11 十組問屋 や大坂の荷積問屋仲間・

12 二十四組問屋 は株仲間の代表。 [図表P.185①]③④

3. 商品の流通機構 [図表P.185①]④



【蔵屋敷について】 [図表P.183②]⑥

* 14 蔵元 …蔵屋敷(13)で蔵物の出納・売却を担当した商人。はじめは武士の蔵役人であった

* 15 掛屋 …蔵物の売却代金の保管・送金を担当した商人で、蔵元と兼ねるものも多かった。

※ —→ のルートをとる年貢米・産物を16 蔵物 という

※ ----→ のように蔵屋敷を経ない商品を17 納屋物 という

〈もう一つの流れ～旗本・御家人の俸禄米〉



※旗本・御家人の代理として蔵米の受取・売却を行った。史料中では「蔵宿」ともよぶ。浅草蔵前に集中していた。

◇ 株仲間の説明はプリントや日本史用語集に書かれているとおりですが、同業者による組織というと中世の「座」も思い出されるのでその違いは何か、と問われると言葉に詰まる人も多いのではないかと思います。ここで確認しておきます。

時期が違うということではあるのですが、まず中世の座は独占的な利益を上げるため、大地主である貴族や寺社などに座役を納めてその見返りにその領域内での保護を受けるというものでした。

一方江戸時代には同じく利益の独占などを狙って「仲間」とよばれる同業者組合が成立します。次にこの仲間を経済統制や税の増収のために利用しようと、幕府や藩が特権を認めたものを株仲間といいます。「株」とはプリントにあるように営業権を指し、株仲間は「営業権を与えられた仲間」の意味になります。株仲間は保護してくれる幕府や藩に(運上とか冥加とよばれる)税を納めるのです。「座」に比べると保護してくれる存在が幕府や藩などの公的な存在であるところも注意が必要です。特に幕府がそれぞれの時期に「株仲間」にどのような方針で臨んだか、ということは重要なテーマの一つですので、享保の改革以降図表 P.185 ①②で何度も確かめることになります。

◇ 蔵屋敷には「蔵元」と「掛屋」の二種類の蔵役人が存在します。この違いは自学自習で把握できたでしょうか。

「蔵元」は藩から送られた米を売るところ、すなわち現金化するところまでを担当します。米を売った後の現金を管理するのが「掛屋」です。当初はこれらは担当を任された武士がおこなっていたと思われるので役割を分けたのでしょう。これらの役目はやがて両替商などに委託されることとなりますが、両替商が担当するようになると「蔵元」「掛屋」は兼ねられるようになっていきます。